

項目	具体的努力目標	自己評価		改善策など	学校関係者評価	
		達成状況など	4段階評価		4段階評価	ご意見
①豊かな心の育成	○道徳教育の充実	○道徳の時間の研修が充実していた。 ○道徳の時間の確保が十分にできなかった。	B	○道徳の時間の研究授業や研修等を行う。 ○道徳教育と人権教育の計画の見直しをしていく。 ○「特別の教科 道徳」の実施に向けて、授業方法や評価の在り方について、組織的・計画的に取り組む。	B	○生活アンケート等に記入されていない場合、いじめ等が窺える場合には、早期発見・早期対応により一層努めてほしい。 ○規範意識の醸成が図られており、今後より一層充実した取組をお願いしたい。
	○人権教育の充実 いじめのない学校	○人権学習を通して、人権について深く考える機会を得た。 ○人権学習で学んだことを、意識・意欲・態度につなげ、実践行動となって現れるまでには至っていない。 ○1年生では、「自分や友達を大切にしたい生活ができています」という項目においては、80%と低い。	B	○引き続き、人権作文等を通じて自己を見つめ直す機会を多く持たせる。 ○教師が鋭い人権感覚を身につけ、差別を見逃さない、許さない姿勢で臨む ○いじめ等がないか、常にチェックできる体制をさらに充実させ、いじめゼロをめざして今後とも取り組む。 ○保護者・PTAとの連携を図り、人権教育の充実に取り組む。	B	○教師と生徒、生徒相互のリレーションづくりをさらにすすめ、学級や委員会での所属感を高められるような活動をお願いしたい。
	○生徒指導の充実	○朝の挨拶運動は明るく大きな声でできている。授業前後の挨拶も大きな声でできるようになった。 ○教育相談については、スクールカウンセラー等との連携を深めており、生徒においては「悩み事について相談できる」という肯定的な意見が84%と高くなっているが、保護者においては74%と低くなっている。 ○「学校や社会のきまりが守られている」という肯定的な意見も97%と高くなっている。	B	○日常の挨拶やチャイム着席の指導を継続する。 ○生徒指導について教員間での共通理解を深め、複数で指導にあたる。 ○学校いじめ防止プログラムを実施し、年間を通して生徒の人権に配慮した教育活動と教員の人権意識の高揚を図るための研修を実施する。 ○生活記録指導や個別面談を充実するなど相談体制を充実させる。	B	○学校のあらゆる教育活動を通じて、人権教育をさらに推進してほしい。 ○学校の花壇をきれいに保つことができ、学校や地域の環境美化に努めてほしい。
	○生徒会活動 学級会活動の充実	○朝の挨拶運動は声が大きくなり、定着してきた。 ○各委員会の月間目標達成のために、学級生徒会で具体的な目標を決めるなど、意識して生活することができた。	A	○挨拶はできているが、個人差があるため、全員が大きな声で挨拶ができるよう指導していく。 ○学級内生徒会の活動を引き続き行い、定着を図る。	A	
	○環境・福祉・ボランティア教育の充実	○学校の花壇をきれいに保つことができた。 ○生徒会活動を中心に、地域の清掃活動を行うなど活発に取り組んでいた。	A	○キャップやプルタブ集めを呼びかけるために学級生徒会を活用する。 ○学校や地域の環境美化に努める。	A	
②確かな学力の育成・特別支援教育の充実 学習の時間・特別支援教育の充実 総合的な	○よくわかる楽しい授業の実践	○「授業にまじめに取り組んでいる」、「授業はわかりやすい」という項目において、ともに90%の生徒が肯定的に捉えている。 ○ICTを活用した授業、生徒が主体的に取り組む授業展開を実践することができた。 ○「家庭学習の習慣が身につけてきている」という項目において、生徒・保護者ともに肯定的な意見が年々低下しており、約60%と低くなっている。	B	○効果的なICTの活用を図るために、研修の充実に努める。 ○家庭学習の充実を図るため、家庭との連携に努める。 ○業務改善を進めていく中で、教材研究の時間を確保し、よくわかる授業実践に努める。	B	○本年度の研究テーマとして、「主体的に学び、考え、表現できる生徒の育成」に取り組んでおり、生徒のアンケート調査でも肯定的に捉えている。今後も、根拠を明らかにして、積極的に自分の意見を述べることのできる生徒の育成を図ってほしい。 ○生徒が、日々の教育活動と将来の進路を結びつけ、自ら未来を拓く力を獲得できるようキャリア教育を一層推進してほしい。
	○表現力(コミュニケーション力)の育成	○「主体的に学び、考え、表現できる生徒の育成」を本年度の研究テーマとして取り組んでおり、83%の生徒が肯定的に努力している。 ○多くの学級で一分間スピーチ等を取り入れており、学習や話し合いの場で積極的に発言する生徒が増えてきた。	B	○一分間スピーチでの各学級の工夫を紹介しあうなどして、さらに内容を充実させていく。 ○認め合い、話し合い、学び合う授業づくりを展開する。	B	○「家庭学習の習慣が身につけてきている」という項目において、生徒・保護者ともに肯定的な意見が年々低下しており、約60%と低くなっているのは、「スマートフォン」の保有率と関係が深いのではないか。調査をして、対応策を考えていくことも必要ではないか。また、小学校との比較等も行うことで対応策も考えやすいのではないか。
	○進路指導の充実	○各学年とも、キャリア教育の計画に基づいて実施でき、内容も充実してきた。 ○「進路や将来の職業について学習ができています」と考えている生徒の割合が学年が上がるにつれて高くなり、80%と高くなっている。	B	○自分の将来を見据えるキャリア教育の推進を図ることが必要であり、そこから自分の学習を改めて見つめ直すことで、家庭学習の充実に努める。	B	
	○総合的な学習の時間の充実	○自分たちの住んでいる「ふるさと」を詳しく知る機会にすることができた。 ○体験学習等の事前学習や事後学習が充実していた。	B	○職場体験においても地域に根ざした職場を開拓することにより、地域を大切にすることを育てたい。 ○活動の目的、自己の目標等を明確にして取り組ませる。	B	
	○特別支援教育の充実	○各学年毎に学習スペースを分けて学習に取り組むことができた。 ○個別の学習指導計画の内容の充実を図ることができた。 ○通常学級に在籍する支援が必要な生徒も集中して学習に取り組める教室環境が整ってきた。	B	○在籍生徒のニーズに合った学習ができる環境の充実に努める。 ○保護者への相談機関や、進路についての情報提供の充実に努める。 ○特別支援教育の推進し、組織的に実態把握に努めるとともに、充実した校内支援体制の構築を図る。	B	
③健康・安全教育・食育の推進	○健康でたくましい体力の育成	○朝の健康チェックを続けることで生徒の健康への意識が高まった。 ○身体測定等では自分の発育・発達に気づく機会となった。 ○「健康管理に気をつけている」という項目において、肯定的な意見が84%と高くなっている。	A	○自分で目標を立てさせ、健康生活に取り組む機会をつくる。 ○性教育講演会や保健の授業等で命の大切さに気付かせ、自己肯定感を高める。	A	○飽食の時代における家庭との食習慣との関係も大きいと考えられる。給食の時間を含めて、食育について考えられるようにすることやマナーについての指導もお願いしたい。
	○安全教育の充実	○「交通ルールが守れている」という項目において、肯定的な意見が96%と高くなっている。 ○集会等を通して、交通安全や自他の生命の尊重について伝えることができた。	B	○引き続き、機会あるごとに、交通安全や自他の生命の尊重について伝えていく。 ○教職員全体で、危機と情報の関係について日頃から考え、学校における危機管理システムの構築を図る。	B	○生徒の安全を守るための取組が適切に行われるよう、定期的に計画の内容や取組を評価し、見直しを行うなどして、安全教育を充実させてほしい。
	○食育の充実	○委員会活動を通して、他の委員会(放送)とも連携が取れ、食に関する啓発活動を日々実践することができた。 ○食育の観点を取り入れた授業を行う教科が増えてきている。	B	○啓発活動等は今後、継続していくことが重要課題である。 ○食に関する掲示を増やしていくよう工夫する。	B	
④研修の充実	○校内研修の工夫改善と計画的な実施	○研修の時間を十分に確保することができず、教職員の研修に対する意識を高めることができなかった。	B	○研修方法や研修計画の見直しをはかり、充実した校内研修の構築を図る。 ○人権教育、道徳教育の研修充実を図るため、道徳推進教師と人権教育主事と相談し、工夫改善を図る。	B	○教職員の長時間勤務が問題となっているが、心身共に健康を維持し、子供たちの指導に専念できる環境づくりを推進してほしい。
	○OJTの充実	○ミドルリーダーを中心とした支援体制を構築し、資質・能力の向上に努めることができた。 ○場や仕事を任せることで、育成を図ることができた。	B	○授業公開週間を実施し、教師同士による学び合いの機会を増やす。 ○個々の教員が身につけるべき資質・能力を明確にして、OJTの目標を立てる。	B	○教職員に対する負担が指摘されており、土成中学校としてさまざまな改善も図っているが、今後もより一層、職場環境づくりをすすめてほしい。
⑤開かれた教育の推進	○家庭・地域社会関係機関との連携	○地域の協力で朝の読み聞かせを毎月実施できた。 ○生徒指導面等で関係機関との連携が適切に実施できた。 ○定期的なホームページの更新や学年便りを定期的に出すことができた。	B	○参観授業や行事等において保護者の参加者数を増やす。 ○小学校との連携を密にし育てたい子ども像等の共通理解を図る。	B	○学校・家庭・地域社会と連携し、課題を共有し合う学習づくりをすすめてほしい。
	○学校評価の充実	○評価に係るアンケートの多くの項目で肯定的な数値が昨年より低下した。 ○全教職員が参加して学校評価(自己評価)を行うことができた。	B	○PDCAサイクルを確立し、次年度に向けて本校教育の質の向上をめざし、取り組んでいく。	B	